富士山かぐや姫ミュージアム
Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum

赫夜 ―かぐや―

博物館だより
2016 8.31 68号

富士山かぐや姫ミュージアム　リニューアルオープン！！

当館は「富士に生きる－紙のまちの歴史と文化－」を展示の大テーマに掲げた歴史系博物館として、昭和56年４月に開館し、市民の皆様に親しまれてまいりましたが、施設の耐震性や、老朽化、旧態化した展示、狭隘感等が大きな課題となっておりました。

そのような中、近年当市今泉の旧東泉院宝蔵（密教寺院・廃寺）から、かぐや姫が月に帰らず富士山の女神となる物語が所収された「富士山大縁起」が発見され、更に富士山の世界文化遺産登録など、富士山文化への関心が高まってまいりました。

この流れを受け、展示を全面的に見直し、キャッチフレーズを「富士山に帰るかぐや姫の物語を展示する世界でただひとつのミュージアム」、愛称を「富士山かぐや姫ミュージアム」として、４月29日にリニューアルオープン・落成式を挙行いたしました。左上の写真は当館テーマソング「富士の女神のかぐや姫」を初演披露する富士市少年少女合唱団です。

なお、本事業の遂行にあたりまして、市民の皆様をはじめ、関係機関より多大な御支援を賜りました。あらためて感謝申し上げます。

さて、去る８月12日に、秋篠宮さまと眞子さまが川勝県知事を随行されて当館を訪問されました。おふたりは富士川の歴史や富士のかぐや姫物語について興味を持たれ、熱心にご覧くださいました。(館長 木ノ内 義昭)

夏のテーマ展

富士へとつながる海の道－吉原ミナトの交通史－

平成28年７月２日(土)～９月25日(日)

はじめに　今も重要港湾として海外の大型船が行き交う田子の浦港の周辺には、かつて吉原湊（よしわらみなと）の名で歴史に刻まれたミナトがありました。海上から一際目立つ富士山を正面に望むこのミナトは、古代以来さまざまな人やモノが日本列島の各地から集まり、海の玄関口として富士地域の発展を支えてきたのです。

吉原のミナトとはなにか　富士山の水が集まる潤井（うるい）川・和田川と、富士山・愛鷹山双方の水が集まる沼川は、田子の浦港のあたりで合流しています。大規模な開削工事が行われる昭和33年（1958）以前、３つの川の合流地点には周囲より水深の深い「淵」が形成されており、船を停泊することに適した地形でした。後に吉原湊と呼ばれるこの天然のミナトが、富士地域が発展する上で大きな役割を果たしていくのです。

ミナトの誕生と川の道－浮島沼水運網　古墳時代が始まる３世紀中ごろに営まれた遺跡から、日本海側の北陸地域で作られた土器が見つかることがあります。これらは、内陸を通って伊勢湾から船に載せられ、太平洋沿岸を通り、吉原のミナトに届けられたものとみられます。ミナトではさらに沼地や河川用の小型船へと載せ替えられ、富士・沼津の重要な遺跡まで運ばれました。太平洋の「海の道」と、浮島沼などを通る「川の道」をつなげる仕組みは、このころには完成していたようです。

浮島沼の「川の道」で使われた船（沖田遺跡出土品）

交通の要衝に眠る中世墓　現在の岩淵や岩本、今井といった地区では、平安時代の終わりから鎌倉・室町時代にかけて造られた墓が見つかっています。墓に納められる骨壷（蔵骨器）には、常滑や渥美、瀬戸など現在の愛知県で作られた貴重な陶器が使用されており、いずれも吉原湊を通じて運ばれたようです。これらの墓は、街道や湊といった人や物が集まる場に近接して営まれており、当時の町や寺院の構造を考えるための手がかりになります。

戦国のＭｒ.吉原湊・矢部将監（やべしょうげん）と見付・吉原宿　矢部氏は、戦国期に吉原湊の渡船管理をしていた地元の有力者であり、商人でした。当時の流通は各地域に拠点を置く商人によって支えられており、矢部氏も戦国大名から重要視されていたのです。矢部氏に伝わる古文書からは、富士登山者や商人のための旅館や倉庫が立ちならび、渡船場、軍港、兵糧基地でもあった、吉原湊と見付宿の姿が浮かび上がってきます。

湊から港へ－自然災害への対応　吉原湊が浮島沼や河川に直結することには、弱点もありました。台風などによる風雨や高潮によって湊口が土砂で塞がったり、海水が逆流したりすると、潤井川や浮島沼周辺が冠水し、周辺の民家や農作物に大きな被害をもたらしたのです。災害のたびに、湊口の改修工事や浮島沼の水量を減らす試みが地元の人びとを中心に実践され、その戦いに一応の終止符が打たれたのは、昭和期に入ってからのことでした。

かつてのミナトの姿を知ることは、今に生きる私たちにも身近な田子の浦港の環境やその土地の特性について、理解を深める手助けにもなるのです。（藤村　翔）

砂丘上の要衝から出土した市内最古級の五輪塔群

（今井中世五輪塔群出土品）

市制50周年記念展

～知命（ちめい）～ 富士市の50年

平成28年10月８日(土)～12月４日(日)

私たちの住む富士市は11月１日で市制50周年を迎えます。この50年で富士市はめまぐるしい変化を遂げました。富士山かぐや姫ミュージアムでは、現在の富士市のもととなった「旧富士市」・「吉原市」・「鷹岡町」・「旧富士川町」のようすを、時代をあらわす写真やその当時使われていた品々とともに紹介し、富士市の50周年を振り返ります。

完成した市役所新庁舎（昭和４５年）

在（あ）りし日の姿を見て懐かしんだり、その変貌に驚いたり、それぞれが感慨深い時間を過すことになるでしょう。「五十（ごじゅう）にして天命（てんめい）を知（し）る」。我々が経験した50年の歩みは、新たな50年、そして１００年、２００年へと歩んでいく道しるべとなるはずです。　（杉本　寛郎）

５０年前の田子の浦港（昭和４１年）

団地の造成が進む今泉地区（昭和４１年）

沼津・三島・富士三市博物館共同企画展

駿東・北伊豆の戦国時代

平成28年12月17日(土)～平成29年２月26日(日)

群雄が割拠し、天下の覇権を争った戦国時代。富士山の南から伊豆半島の北、現在の富士市・沼津市・三島市に広がる地域は、駿河（静岡）の今川氏、甲斐（山梨）の武田氏、相模（神奈川）の北条氏が、天下統一の夢を抱いてしのぎを削った場所です。その痕跡は、歴史資料・史跡・伝承といったさまざまな形で、４５０余年後の現在に受け継がれています。これらは、地域にとって重要な歴史資源といえます。

そこで、この展示では、今川氏・武田氏・北条氏の三氏や、当時この地域で活動した人びとにかかわる収蔵品や史跡、各地の伝承などを取り上げ、地域の歴史について学ぶ機会を提供したいと考えています。

また、富士山かぐや姫ミュージアム、沼津市明治史料館、三島市郷土資料館の３館でそれぞれの市域の特徴を打ち出し、ほぼ同時期に連携して開催することにより、３館をめぐっていただくと、駿東・北伊豆の戦国時代の姿についてより深く知ることができます。

今川・武田・北条という戦国大名が、この地でどんな夢を描き、散っていったのか。そして、現在の私たちに何を残したのかということをぜひ探ってみてください。　（井上　卓哉）

他館の開催期間

三島市郷土資料館　　平成28年10月15日(土)
～平成29年１月22日(日)

沼津市明治史料館　　平成28年11月12日(土)
～平成29年１月29日(日)

休館日・開館時間については、各館にお問い合わせください。

※３館をめぐっていただいた方には、素敵なプレゼントを差し上げます。

みなさんに意気込みを聞いてみました。

「北信、そして日本海へ」

信玄さん

義元さん

「上洛。まずは尾張制圧」

氏康さん

「関東平定。かつ民政充実」

展示会案内

★７月２日(土)～９月25日(日)
テーマ展「富士へとつながる海の道－吉原ミナトの交通史－」

★10月８日(土)～12月４日(日)
市制50周年記念展「～知命～富士市の50年」

★12月17日(土)～平成29年２月26日(日)
沼津・三島・富士三館企画展「駿東・北伊豆の戦国時代」

★平成29年３月11日(土)～５月21日(日)
第54回企画展「大村西崖」

各種イベント・体験講座案内

◆　農家の食と年中行事

旧稲垣家住宅において、さまざまな年中行事を体験することで、富士山麓に生きてきた人々の暮らしを感じてみませんか？

日時・内容
①８月21日(日)　そばの種まきとゆで落花生作り
②９月11日(日)　月見団子作り
③10月30日(日)　そばの収穫とかまどめし
④11月26日(土)　そばの脱穀・製粉と干し芋作り
⑤11月27日(日)　そばうち
※③④⑤については３回連続講座
⑥12月23日(金祝)　もちつきと注連縄作り
⑦１月９日(月祝)　繭玉作りと小豆粥
⑧３月18日(土)　牡丹餅作り
各回とも原則9:00～13:00
定員　各回先着10名程度

※申込み方法、日時等詳しくは「広報ふじ」をご覧になるか、直接ミュージアムへお問い合わせください。

◆　かやぶき農家の癒しのおんがく会

９月～３月の第３日曜日、旧稲垣家住宅で開催
９月のみ　18:00～20:00
10月以降　13:30～15:30　いずれも入場無料

◆　古文書解読講座～入門・初級編～

日　時　９月３日(土)、10日(土)、17日(土)
　　10:00～11:30　全３回　参加無料
定　員　先着20名
申込み　８月20日(土)9:00～電話または直接来館

◆　稲垣家のお泊り体験

日　時　９月17日(土)17:00～９月18日(日)10:00
定　員　小学生とその保護者　4組16名程度
申込み　往復はがきで申込み（9月6日(火)必着）
　　応募者多数の場合、抽選となります。

◆　古代人の暮らし～古代の知恵に学ぶ～

日時・内容　①11月19日(土)　古代料理レストラン
　　②11月23日(水祝)　親子どきやき体験
定　　員　①小学生以上一般　　先着15名
　　②年少～小学生の親子　先着15組35名
申　込　み　①11月５日(土)　②11月12日(土)
　　いずれも9:00～電話または直接来館

◆　富士の型染体験

日時・内容　２月25日(土)　富士山タペストリー
　　9:30～12:30
対象・定員　小学生以上　先着20名
　　(小学４年生以下は保護者と参加)
申　込　み　２月11日(土)9:00～電話または直接来館

◎各講座、イベントともに内容・日時が変更する場合もあります。詳しくは、博物館ホームページや各講座チラシ、広報ふじ等でご確認ください。

富士山かぐや姫ミュージアム　赫夜－かぐや－No.68

発行年月日　平成28(2016)年８月31日
編集・発行　富士山かぐや姫ミュージアム
　　Mt.Fuji and Princess Kaguya Museum
印　　刷　文光堂印刷株式会社
住 所・連絡先　〒417-0061　静岡県富士市伝法(でんぽう)66-2　TEL.0545-21-3380　FAX.0545-21-3398
　　HP. http://museum.city.fuji.shizuoka.jp/　E-mail. museum@div.city.fuji.shizuoka.jp
開 館 時 間　４月～10月　9:00～17:00　11月～３月　9:00～16:30
休　館　日　月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日、12/29～1/3(年末年始)
歴史民俗資料館（　分　館　）　開館時間・休館日は本館に同じ
博物館屋外展示（ふるさと村）　休館日なし　**すべて観覧無料**

タイトルの「赫夜－かぐや－」は、富士山のかぐや姫物語を今日に伝える「富士山大縁起」（当館蔵）に登場する「赫夜姫」からとっています。

このリーフレットは、再生紙と植物油インクを使用しております。